



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2018年09月10日 第885号「週刊五十嵐レポート」

スズキ、中国生産撤退から学ぶ

8月22日付、日本経済新聞では、「日本の自動車大手3社が中国で一斉に増産投資に動く」という記事。日産自動車は中国に新工場を建設し、2020年をめどに乗用車の生産能力を3割高める。トヨタ自動車とホンダも生産能力を2割増強する。中国は政治的リスクもあるが、世界最大の自動車大国。尻込みすれば巨大市場から取り残されると判断、増産に踏み込む。

一方、9月5日付、日本経済新聞では、「スズキ、中国生産撤退」という記事。スズキが中国での自動車生産から撤退する。小型車を得意とするスズキは大型車が主流の中国市場では苦戦していた。世界2位の米国市場に続き最大の中国市場からも撤退。成長が続くインドやライバルが手薄なアフリカなどにかじを切る。

	(18年3月期百万円) トヨタ	日産	スズキ
売上高	27,597,193	11,951,169	3,757,219 (トヨタの13.6%)
当期利益	1,831,109	746,892	215,730 (トヨタの11.7%)
純資産	18,668,953	5,688,735	1,595,227 (トヨタの8.5%)
総資産	48,750,186	18,746,901	3,340,828 (トヨタの6.8%)

「弱者の戦略概念」は、1. 強い会社と同じことをせず、違ったやり方をする。「差別化」。2. 小規模1位主義・部分1位主義。強い会社との競争を避け、自社の経営力で1位になれるものに目標を定める。3. 強みを生かして、弱みは捨てる。

鈴木修会長、「うちみたいな中小企業が大手に太刀打ちできるはずがない。他社と違うことをしないと生き残れない」と語る。インドでの乗用車シェアは約5割。大手が見向きもしなかった1980年代にインドに進出。インドを拠点にアフリカに進出。大きなライバルがないハンガリーでシェア1位、東欧・中央アジアを狙う。

強みを伸ばし、弱みをカットする。この決断。尊敬！

ちょっと
気になる出来事

8月31日付、朝日新聞に、「プロ野球、生観戦の人気上昇中」という記事。プロ野球の観客動員数が右肩上がりに増え、今期も過去最高を記録しそう。

首都圏では、今は地上波でプロ野球中継はほとんどない。ファン人口の減少を示すデータもある。しかし、なぜプロ野球観戦が人気あるのだろうか。セ、パ両リーグによると、球宴までの前半戦を終え、1試合平均の観客動員数はセが33,069人（前年同期比2.1%増）、パは26,097人（同2.2%増）。12球団のうち8球団が前年比で動員を伸ばした。

昔のように放映権に頼れないため、集客に力を入れている。球場の営業権を手に入れて、「ボールパーク化」し、独立採算を目指す球団が増えてきた。試合だけではなく、球場に行けば楽しめることが人を引きつけた。

首都圏では、巨人人気落ちてきたことで巨人に頼らない、独自の経営を進めてきた。今まで球団は親会社の広告等でよく、赤字でも許された。今は、Jリーグなど他のプロスポーツが独立採算を目指し、創意工夫をしていることで感化された。いいことです。テレビ観戦はBSで已む無しが。



一口メモ
知識

心をおさめたら安楽が

私たちは瞬時に怒り出したり、瞬時に笑ったりします。心というものは、あまりにその動きが速いのです。

あまりに速いために、心の動きに気がつくのは、とても難しい。だから、怒ったときは、そのことにすぐには気がつきません。もう手遅れになってから、「まずいことをした」と気がつくのです。

その心の動きに気がつくことが、心をおさめることになります。

ブッタは「心をおさめたら、安楽がもたらされる」と言われました。

「ブッタの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムッレ・スマナサーラ)より

「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時～6時

「戦略社長塾東京」銀座校、五反田校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

03-3659-7703 Fax 03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com

